

4-2	復興五輪って本当なの？ － 東京オリンピックの開催意義 －	所属 千葉県立松戸向陽高等学校 氏名 大倉泰裕
資料名	東京2020の誘致時の新聞記事や当時の政治家の発言など (例：2011年6月17日、平成23年第二回都議会定例会 知事所信表明)	
資料内容	○ 誠に喜ばしい。五輪の開催は東日本大震災からの復興を示すものともなる。日本政府は大会招致を全面的に支援し、開催をぜひとも実現させたい。 (2012年5月24日、東京が2020年の夏季五輪開催都市の第1次選考を通過したことを受けての野田首相のコメント。2012年5月25日・産経新聞より)	
教科書等との関連	中学校公民的分野 市場経済の基本的な考え方 高等学校公民科 市場経済の機能と限界	
キーワード	市場経済 トレードオフ 希少性 資源の効率的配分 コロナ	
ねらい	◆トレードオフについて現実の問題を通して理解を深めさせる	
活用場面 あるいは 授業プラン の概略	発問 東京2020の誘致に向けて動き出したのは、東日本大震災直後のことである。これから被災地の復興をしなければならないときに、それと同時にオリンピック・パラリンピックの準備を進めるといふことに無理はないのだろうか？ 解説 現在東京2020は「コロナに打ち勝った証として」などと言われているが、スタート時は「復興五輪」と言われていた。 でも被災地復興とオリンピック・パラリンピックという巨大な2つのプロジェクトは両立するのだろうか。 もちろん両立するのであればいいのだが(震災からの復興が終了してからオリンピックの準備を始めたのであればいいのだが)、トレードオフの視点から本当に復興五輪として被災地の復興に役に立ったのか、被災地復興の進行状況を示す資料などを集めて調べることを通して検証し、改めてトレードオフについての理解を深めさせたい。	
備考	コロナ禍のオリンピックの開催に関してもトレードオフの観点から考えさせる事もできる。	